

---

# **【詩集】もがりぶえ**

布袋しぐれ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

JのPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

【詩集】もがりぶえ

### 【Zマーク】

Z6653Z

### 【作者名】

布袋しぐれ

### 【あらすじ】

布袋しぐれの詩集、第3弾。いつも「愛読ありがとうございます」といいます。徒然と心の赴くままに、書き連ねるこの詩集。どうぞお楽しみください。今回も詩集の題は、私の生まれの季語からつけさせて頂きました。

## 我が儘な愛

そう

初めてじゃない  
数え切れない

恋の海

ダイブして

その切なさに溺れて  
私がサーファーなら  
いつになつても  
波に乗ることをしらない

素人で

いいえ

分からない

覚えていないくらい

繰り返して

お遊びめいた

この恋愛を

ねえ誰か

うまいこと並べて

おしゃれなジャズでも頂戴

おまけに思いつきりキツイ飲み物を

よく出いで出る

『浮気の恋に燃える』私  
占いどおりね

人のモノが一番  
良く見える

無いもの強請り  
やめたいけれど  
どうやらそこまで

私  
賢くないみたい

そう

ほしいのは  
温かなハグ

何度目の恋かしら

胸の高鳴り

抑えられそうも無いの

そう

こんなに隙を作つてあげているのに

こんなチャンスふらないで  
ささげる愛には飽きたから

誰か私を嫌と言つほど  
愛して頂戴

## 温かい季節

夢から

今なら醒めても  
後悔しないかもって  
いつかのプリンセス  
まだ毒のリンゴ

吐ききれてないみたいね

こんな季節に

あわてて準備なんかして  
もっと早くからするんだつたつて  
どこかのサンタのおじさん  
外ではトナカイが待つて  
暇を持て余しているみたいね

赤と緑と白と

派手な色合いでその身を包んだ

街

綺麗なネオンの遠く  
幸せな声が聞こえる

そんなに慌てて  
流れしていく星たち  
煌いて光を放つて  
私もあんなに輝けたら良いのに

星たちに嫉妬してゐみたいね

今

街中は温かな幸せに囲まれた  
温かい季節

## 戯言

気まぐれに  
呟いて  
あなたへの  
空虚な告白

いないあなたに  
届かない声は  
無意味なのに  
どうしてこんなに  
唇に乗せたい音なんだろう

まるで麻薬のよしひね  
媚薬のよしひね  
温かい言葉  
ほしい愛もままならないのに  
ほしい愛も手に入らないのに  
どうして  
辛くないんだらう

心にぽつかり開いた穴は苦しくて  
痛くって  
葬り去るひつと  
私の頭

考え付いたみたいね

ああ

まるで人形みたいに

さあ

求めてよ

求めるままに

甘美に

優雅に

時に大胆でふしだらに  
舞つて差し上げましょ

嘘でいい

憎いあなたでもいい

私に

愛していると

囁いて

## 聖なる

こんな冷たい  
嘘つきピエロみたいな  
風に吹かれて

聖なる夜に  
生れ落ちる命は

まるで

あなたのようね

汚れなき

あの雪のように

しずしずと

綺麗に

降り積もって

こんなに冷たい夜は  
まるで「冗談だと  
告げてるみたいに

感傷にひたるためにあるみたいな日  
なのには

会い

楽しむ

楽しげな声

楽しげな姿

街中は綺麗に

ペイントされて

キレイじゃないけれど

一人じゃ歩きたくない

関係ないことも

考え込んでしまいそうだから

キレイじゃない

すきでもない

このイヴの日に

願い事はただひとつ

## 口実

よく言つよ

お前は中々口達者だ

そういうお前もよく言つよ

そうやつて酒を飲み交わす

大人たち

上手い事言つて

こんなご時勢だから

ちょいと

引っ掛けようつていう

魂胆でしょ

上手いこと言つたな

お前も上手いこと言つてきたんだね

そういうお前は何て言つたんだ

そうやつて言い訳の口実を探しあう

大人たち

どうやつて言い逃れてきたのか

ありきたりだけれど

次の口実

しきりに探して  
新しい口実探して

サンタも忘れた  
疲れた大人たち  
そうね

おねだりするなら

口実を考えてくれるものがいいんじゃないかしら

課長に呼び出されちゃって  
いや後輩が仕事でな

言い訳口実  
たまには正直に

飲みたかったのさ

そういうてもバチはあたらないんじゃないかしら

## ディア・パトロン

親愛なるあなたに

叶えたい夢があるの  
ひとつじゃない

ふたつ

みつ

数えていたら  
多分キリはないわ

小説家になりたい  
一番強い射撃の名手になりたい  
有名になりたい

世界中をめぐつて  
それを本にしたい  
絵を描いて

アトリエだつて持ちたいし  
それを画廊に飾りたい  
ダンスも好きなの  
歌も好き  
いつか大きな舞台で  
ミュージカルにも出たい

夢がいっぱいあるの  
数え切れないくらい

HITな夢ばかりじゃないわ

いつかあの団体に  
莫大なお金を寄付して  
名前を名乗らずにおいてみたいわ  
かつこいいじゃない

だからそこまで儲けなくっちゃ  
頑張らなくっちゃ

初期投資って痛いのよね  
誰か手伝ってくれない

ねえ

親愛なるあなた

私の才能に賭けてみない  
あなたが出し惜しみすることなく  
協力してくれるというなら  
私はあなたに  
私の与えられるもの全てを  
差し上げてよ

強く

少しでも  
強くありたいと願うのは  
少し  
悲しい一いちつぽけな  
意地のせいなのだろうか

踏みにじらないで  
このまま  
私は  
私らしく夢を抱いて  
歩いてゆきたいの  
邪魔をしないで  
誰も

許されない  
真実は  
甘い果実みたいに  
人を誘うから  
そんな誘いを  
人は罪という

罪など無い  
あるのは幾多の罠だけ  
かかるて

落ちて

そして

それを罪と書いて

勝手に

悪い扱い

自分勝手にも程があるのよ

抱きしめて

嘘じゃない

こんな世界中

あなただけが本当の強さだと

あなたの背中だけずっと  
追いかけてきたのよ

またあのときみたいに

あなたは

ただの踏み台になるのね

ああ

足りないもの

それは

強すぎる

激しい刺激

それがほしい

強くなりたいから

私こそが  
最高だと  
エンペラー夢見た  
愚かな人間だと思えばいい  
けれどいつか  
君臨してみせる  
この強さで  
この鋼にも負けない  
信念で

まるで記憶のサイクルの中に落ちたみたいな  
見慣れた後姿に  
胸がドキリとした

名簿につづられた  
少し乱れた字  
全然予想もしてなかつた  
知らない人の名に  
少し落ち込んだ

この町のどこかに  
今でもあなたが住んでいて  
再び  
会えること  
心のどこか  
奥深く隅の方で  
期待してたの

あまりに幸せ  
満たされた日々だったから  
頭に張り付いた  
この記憶離れないの

## 初恋の頃

童心に戻つたみたいに  
それは綺麗な記憶の底  
掘り起こして

懐かしさと共に

こみ上げてくるのは

寂しいな

会いたかった気持ち

今頃

どこかで

元気にしてるんだろうかって

あの頃みたいに

話すことができたらいいのに

初めて好きになつて

まるでカーテンの隙間から覗いているみたいに

それは見えづらくって

これが恋というのね

あなたを知つて

色づき始めた

13の頃

## 貪る愛情

ほしいのは  
母のような  
献身的な愛情ではない

ただ燃え盛る  
業火のような  
激しい愛

ほしいのは  
父のような  
間接的な優しさではない

ただ力強く  
後押ししてくれるような  
そんな光

ほしいのは

恋人のような

お互いを支えあう愛情ではない

ただ火を噴いて  
恐ろしくくらいに

この世を抱く自然のよつに

力強く

真っ直ぐに

素直で

大きな

愛情

食っている訳じゃない

そう答えたたら

これは嘘

愛されたいなんて

誰にでもあるだらうけれど

私はそれじゃ

満足できないまで

麻痺して

食えて

ただ欲して

愛して

けれど決して汚さないで

愛して

優しく力強い光の中で

そうして私を導いて

あつとよ

蔑まれて

土足で踏み躡られて

この心

抉られて

生きてきたせいね

呪縛していた

私以外の

輝く女たち

裏側はとても醜かつたのに

あらま

隠すのがお上手なこと

長らく

無愛想で通してきたわ

私は無愛想で

ちょっと気取った勘違いレディーみたいに

笑って

笑つて無かつたわね

あなたの前で

私は氣取ることなく

ただ他の女と同じよう

笑つて話して

ねえ

随分変わったみたいでしょ

けれど

私が剥いだのは

他の女たちと私の仮面

後は貪るだけ  
準備は出来たの  
数多の愛情が必要よ  
罠も餌も何もかも  
撒いておいたから  
もう心配要らないわ

## 耳を塞いで

声が聞きたい  
あなたの声が

燃え上がるような  
こげるような

情熱が

この胸に  
ときどき

唐突として燃え上がつて  
焼けるみたいに

痛いこの胸が  
騒がしく鼓動を打つ

うるさい

この胸が騒がしい  
静かにして

気付かれちゃうんだ

あの人気に付かれそうなほど  
騒がしいこの胸が

裏腹に騒がしい  
この胸のうちが

私の知つている私じゃないわね  
私の知つている私のいつもと違う  
キライじゃないけれど  
スキでもない

お願い

静かにして  
耳を塞いで  
聞こえないフリ  
あまりにも必死で  
笑えちゃうくらい

耳を塞いで  
耳を抱いて  
そうして夢を見た

私は耳に針を刺して  
針を数え切れなくくらい刺すと

頭の歪む錯覚を覚えて

抜かなくちゃ

無意味な夢の中

抗つたけれど

不思議と

中々外れない針に  
痛みを覚えて

苦しみだ

心臓が「うるさい」  
鼓動が「うるさい」  
あなたへ向つ  
この生きている証が  
「うるさい」

## 蔓延り廃れ

美しくない  
面白くない  
良いものじゃない

善意じゃない  
形が見えない  
透明じゃない

ああまるで  
嘘つきピロロのみせる  
うやの世界みたい

何よこれ

同じものに溢れて

どのページをめくつても

ダメ  
ダメ  
ダメ

それでも芸術家の端くれなの  
疑いたくなる

私が憧れた世界は

もつと

妖艶で

美しく

もつと

日本語独特のミステリアスさと  
きらびやかさが  
あつたはずなのに

蔓延る文学に

落胆する

つまらないなあと

そうして古い書籍に手を伸ばし

ああ

あの頃の言葉は  
美しかつたと

蔓延り

廃れる文学に

嫌気が差したんだ

## 抱きしめた光

苦しくて  
抱きしめたの  
暗い  
闇の中で  
もう何も  
見えないから  
まるで そう  
田隠ししてゐみたい

唄が聞こえる  
祝福の唄が  
あなたの声によく似た  
優しい声

鼓膜の深くに  
響くような  
優しい  
声で  
私に囁いて

轟轟  
呼ぶ音は  
まるで  
田を覚ませと

そう 言っているみたいね

苦しくて

息苦しくって

辛く重たい

闇の中

もう全て

終わらせたいから

まるで そう

永遠の眠りを待っているの

眠り姫でもないけれど

たつたひとりの

白馬の主

待っているの

あなただけが

光を持ってきてくれると信じて

救い上げてくれる

信じて

## チヨロント・チヨロノ(前書き)

チヨロン・・・韓国語で『～のよつ』にあたる言葉。発音的には『チヨロン』と『チヨロム』の間くらい。正しいのはチヨロムくらいですが、『ノ』にしました

つまり意訳=チヨロイトのよつ(または、チヨロイトみたい)

(一)

## チヨコレイト・チヨロン

せっかく

女の子に生まれたんだから

楽しまなくちゃ

損つてモンでしょ

ファッショն

メイク

アクセサリー

毎日

新しい刺激が溢れてて

心地よい

まるで水を得た魚みたいに

すいすい

生きていきたい

せっかく

こんなに自由に生きてるんだから

私らしくなくっちゃ

私が勿体無いわ

髪を伸ばして

ダンス

そして射撃に

いっぱい

男らしくたつて

構わない

それはそれで面白いじゃない

男の中なら

どうかどりじてないもの

疲れちゃう

女の子

チョコレイト・チョロン

甘くて

綺麗で

魅力的だけれど

中身はマシユマロ・チョロン

そんなに優しくない

何が入っているの

とっても苦くて

辛くて

ああ

見かけに騙されちゃった

噛り付いて

不味くって

女の子

チョコレイト・チョロン

たまにはスイーツらしい

女の子に出会うけれど

確立は低くって

チョコレイト・チョロン

それほど甘くないの

せつかく  
女の子に生まれたんだから  
綺麗に着飾らなくっちゃ  
私が勿体無い

このまま終わるには  
シンデレラも  
まだ早いって  
そう言つてゐから

チヨコレイト・チヨロン  
そんなに甘くない  
世の中に抗う為  
武装した  
チヨコレイト・チヨロン・ミジヤ  
生きしていく為には仕方ないのよ

チヨ・ナムヤード・チヨロソ（後妻わ）

ミヅヤ・・・韓国語で女の手にあたる言葉。

先生

初めて口を利いたその瞬間から

先生

ありきたりね

こんな話

後輩たちを乗せた車が  
後からついて  
ゆっくりと

山道

登つて来る

そのハンドルさばき

少し後輩たちが  
羨ましかった

好きですよ

そんな言葉

口が裂けても言えないから  
頑張つて挨拶するだけ

「こんにちは」

それが精一杯

先生  
初めて口を利いたその瞬間から

先生

初めてよ

こんなに好きになつたのは

純粋な

片思い

このままもう少し

好きでいいでしょうか

先生

今純粋にこの気持ち胸に

先生

好きだから

あと少し見つめること

許してね

先生

もう少し

もう少しだけ好きでこれをひとつそこ

## 不純物

水にも

油にも

何にも溶けない

何にも混ざらない

まさしく

それ

人間の造りだした

不純物

ふわりふわり

何事も無かつたかのよう

ふらついて

浮ついて

綺麗で醜くて

分かりやすく捕えやすくて

分かりにくくすり抜けやすい

それはまるで

この世に取り残された  
最後の不純物

綺麗で醜くて

それつてまるで  
血に汚された、ダイヤみたいね  
そう曇らせて

意味不明  
機械仕掛けの  
この時代に  
ねじの1本でも飛んでくれって  
願つてみたりする

不純物は  
やがて沈むことを願うんだ  
漂つることを許される為に

YOU

君は『大丈夫』だと  
そう言って

あのときみたいに

半ば

強制的に  
力ずくで

この背を押すね

私が倒れそうなの  
知ってるの  
私が弱いことも  
知ってるの

分かつてるフリして  
ブチつて

ねえ

寄りかからないと  
生きていけない  
人間だつて  
私はそうだつて  
知ってるでしょ

君に寄りかかれたら

きっと最高でしょうね

あなたの横に

やがて肩を並べる

女性が羨ましい

本当の愛を

取り逃がしてばっかり

馬鹿で

愚かで

疎い私

あのときみたいに  
優しく抱きしめて

私に

優しい声をかけてほしいの  
凍えた手を  
驚きながらも  
ぼやきながらも  
ゆっくり温めて欲しいの

忘れられないの  
あの日が  
嫌いだつたあなたが  
恋しいなんて  
まるで笑い話  
でも

本当に  
忘れられない  
あなた

## 追憶の言葉（前書き）

早期退職された、国語科の先生・・・  
色々お世話になりました・・・  
随分と前の記憶

## 追憶の言葉

あの日

あのひと夏で  
去つた師匠を

私は中々

忘れられなかつた

師匠に染み付いた  
チヨークのにおい  
優しく微笑むその姿に  
どこか懐かしさを覚えて

ねえ

どこにも行かないで  
辞めないで

そう言えたら楽だつたのに  
師匠は行つてしまわられるのね

人は誰しも  
生き得る限り  
出会いも別れも  
経験するけれど  
その経験に  
必死にすがつて  
生きていけない

歩き出せない

取り残された”私”

頭のどこかで

身体の中

時計は13のあのときから

止まつたまま

動き出せないんだよ

抱えた思い出  
多すぎて  
歩き出せない

置いて行つた思い  
多くて

抱えきれなくつて  
歩き出せなかつた  
手を差し伸べる

優しいあなたも

またすぐに私の目の前から消えて

ああ

すごく遠く

もう背中しか見えない

せんせい  
師匠も

そんな一人だと

分かっているつもりなのに  
どうして  
忘れられないのだろう

強く

絶対に負けない  
屈してたまるもんかつて  
そうやつて今まで  
這いつくばつて  
一番低いところ

屈辱的な

日常に say goodbye

もう振り向きもしないから

一番低いあの場所に

もつ多分戻らないと思う

気にしないで

私のこと

もつと先に進むつもりよ

邪魔しないで

私の道

行く先憚つても

進めるから

希望もあるし

もう何も怖くないのよ

強くいれる

あなたがいるから

どんなに辛いときも  
心にいるあなたの存在で  
強くいれる  
強がりじゃなく  
立ち上がるたくましさを  
あなたが  
私にくれたから

## 見栄張り

ほつそりとした  
高く急斜面な  
そんなヒールに足を入れて

危うく滑りそうになつて  
慌ててすまし顔  
そんな人  
いっぴいいる

ミニスカートから覗く  
その足に纏うタイツ  
寒いのガマンで

寒そうね  
寒いわよ

今日は頑張ったのね  
張り切つてみたの

それ新作なの  
そうなの  
高かつたでしょ

まあね でも奮発しちゃって

けれど足も

すぐにお肉がつっちゃって

だから

すぐこでダイエットに逆戻り

そうして必死に瘦せて

またその足を通す

晒してこの脚でしょう

晒してこの見栄でしょう

そのためならば

多分

ガマンは厭わない

だって  
女ですもの

## 渴き

正直

こんなに渴いていると思わなかつた

カラカラだつた

太陽にあてられすぎてたみたい

熱い

ひりひりと痛むこの渴きは

パリパリに張り付いているみたい

少し文面に田を通す

息を吐いて

落ち着いてから思つた

あらま

無駄な思考が頭を占めてるつて

満足してないな

砂漠のように  
渴きが癒えない  
苦しくなつてくる  
だんだんと  
ゆっくりと  
まるで

じんわり奪われる満足感

出来ればもう少し  
天国の園にいて  
満足したまんまでいたかったなって  
どこか自堕落な私が呟く  
意味もなさげに  
けれどはつきりと

## 本性

馬鹿にしないでよ  
指先でつままないで  
これは注意じやなくて  
ただの君への  
最後の警告

生半可に扱わないで  
私は玩具じやない  
少し弄んでポイとか  
そんなのしてたら  
痛い目見るわよ

純粹に求める  
愛情くれなくたって  
君じやなくとも  
もつと素敵な  
プレイボーイ  
溢れているの

簡単に済ます

片手のラヴ・ディッシュ  
愛のフルコース  
ときどき必要だから

どんどん過激になっていく  
満足できないだけ

こんな片隅

渴いたまんまじゅ

潤いも無意味

渴いていくだけ

片手で弄んで  
適当にさよならなんて

馬鹿にしないで

決定権は私に頂戴

いいえ

決定権は私にあるわ

生意気

偉そう

強情

そういう君もそつだもの

人間本来の姿

私が

## 孝行

その一文字

それに対する言葉なのに

行うのは難しい

いつもいつも

おかげで食つていけるといつのこ

どいしても辛く当たつてしまつときがある

良心が痛む

本心も無ことじが口から出でる

手が足が

震えて

これは悪いことだと拒絕する

難しいね

いつの日かつて

約束したね

あなたたちの行きたがつていて

北海道旅行

私がいつか

連れて行つてあげるからねつて

無理をして

ガタのきている

父の背中

あんなに小さかつたつけ

あんなに細かつたつけ

逞しくなかつたつけ

歳を得ること

最近

怖くてたまらないんだ

孝行つて

その一文字に収まる癖して

行つのは至難の業

いつか上手くできるかな

あなたたちのために・・・

## パターン

めっちゃ 素直になつて  
吐き出しちゃつて  
ありえないくらい  
素直になつて

そうしてあなたと語り合えたらしいのにね

私がずっと話し相手のどこかに触れていないとダメな訳  
きっと不安なのかもしない  
どこかに行く気がして  
だからよく”誤解”される私を  
友人は”そりゃそうよ”って  
君は”まあ”って  
言葉を濁す

言葉も裸になつて語り合えたらしいのに  
嘘とか冗談とか  
そんなの無視して  
そつとして生きていけたら幸せ

不安じやない瞬間なんて無い  
怖いんだ

ひとりの時間となにもない時間が

手持ち無沙汰

それだけだつたら幸せだけれど

空っぽの心に何か

熱くて苦しいものを流し込んでしまって  
安心してしまいたい

繰り返していく仕草にちょっと

嫌気もさしながら

これが私だと

私が認める

## 頑なに

私がぼうっと  
喋らなかつたら  
悪態つく  
そんな見知らぬ  
男と女たち

けれど話を始めたら  
不思議なマジック始まるの  
まるで可笑しな国の  
可笑しなゲームみたいに

お世辞じゃないわ  
お世辞は結構  
話に花が咲いて  
いつまでも和やかに

けれど気まぐれなの  
私のルール  
気まぐれに愛して  
気まぐれに愛想ふりまして  
だから私を  
人は無愛想で  
可愛気のない  
ただの女だというの

ニキビツ面

これを笑うとは失礼ね  
紛れもなく

親から引き継いだ

厄介ながらも

やつとの共通点だと云つのに  
これを侮辱するつて  
この血筋を侮辱することよ  
あなたたつた一人に  
そんなに多くを侮辱できて

プライドだけ高くつて  
ブサイクだつて  
よく言われるわ  
けれどそれつて  
一見さんのお言葉なのよ  
お黙りなさい

けれどそれが丁度良いときもあるんだけれど

## スピットライト（前書き）

結構、マジな詩です

## スポットライト

懐かしい  
懐かしい

熱くて眩しいスポットライト

熱すぎて

届かないくらい

この情熱を燃やして

愛おしい

あのひかりよ

今度のステージはソロで立たせてよ  
もう永遠にないかもしけない

この大舞台

久々に立った

あのオーディエンス40人だけの

小さい舞台は

この胸揺らすには十分で

久しぶりよ

こんなにときめいてる

高ぶる感情は

まるで質のいい麻薬を貰つた中毒者みたいに

打つ前

その寸前みたいに

頭の中

弾けてる

アドレナリン

激しく波打つ

て  
素敵に

胸を躍らす

気持ちいい

ステージの上

皆が私を見ている

大好きなんだ

その瞬間が

いつか大舞台で  
もう一度舞えたら  
歌えたら

私はそこで死んでもいいと願う  
最高の一瞬にかけて

## スポットライト（後書き）

大舞台・・・立ちたいです  
誰か・・・チャンスを！

## 子供

素直に気持ちを表して

笑つたり

泣いたり

嫉妬したり

怒つたり

そう繰り返す日常に

否定する権利など

きっと誰にもないんだろう

明るく前向きに生きていこうと思いつ

繰り返し

いろんな人が

私に教えてくれたみたいに

時には拗ねたつて

時には私がまま言つたつて

構わないでしよう

だって人間じゃない

押さえつけられる必要などなにもない

社会の柵しがらみ

表現の海だつて

どこへ向いて行つたつて構わぬはず

自由でいいの

自由がいいの

だってまだ子供だから

言い訳っぽく

子供っていう単語に

こだわってみる

まだ17の頃

## もう一度

私と目が合つた瞬間  
見つけたみたいな  
ちょっとおどけた顔  
一瞬だけだつたけれど  
私ちゃんを見たんだから

少しだけ遠ざかって  
あなたを見ているの  
不釣合いな子供だもの  
近寄れないの

あなたを見つめると  
苦いチョコレート初めて食べたときみたいな  
複雑な気持ちになるの

あなたの前で

綺麗でいたいと思うけれど  
ニキビなんて消えやしないし

こんなときだけ

母親譲りの肌がちょっと  
憎たらしい

お母さんには内緒の話

あなたの視線の中に  
私がどうかいてほしいって  
ときどきスルーしていく  
あなたの視線の先

幾ら大きいからって  
目くらい合わせてくれてもいいじゃない  
まるで視界に入っていないみたい

あいさつしても  
ときどき見えてないの  
知らん振り

幾ら大きいからって  
そんなの許せないから  
視線をかわさないでよ

難しい  
あなたを見つめることも  
こんなに離れてちゃ  
もう手遅れかもね

こっちを向いてほしい

どんなお姉さんと

幸せ、ゴールインしようと構わないから

一度だけ kiss me

一瞬だけ

あなたの時間くれませんか  
どんな結果でも構わないから

もう一度 show you

あなたへの一瞬

最高の時間を下さい

ホントに些細で構わないから

思わせぶりは No Thank you

はにかんだ笑顔より

一瞬の肯定的な愛が

ただひとつほしいだけなのよ

## 片思い

片思ひって  
独りでいる時間に  
あなたを考へてることだって

いつかの流行歌  
それを教えてくれたよ

いつまで経つても  
冷めない本当の熱に  
これが片思ひって  
知つたと思つ

あなたが好きで

一番 call I love you

呟くのは慣れたんだけれど

あなたを目の前に

言えない I love you

いつまで経つてもうるさい心臓

あなたに言いたい

ただ一言 call I love you

もうタイプミスもしないほど打ったよ

送れないただ一言  
軽い話くらいしか  
したこと無いから

いつかいえたら

この辺思いから抜け出せるのかな

## Cruel love

The flowers bloom

今しか咲き乱れない

このときに

何に渴いて

何に飢えて

こんなに綺麗に咲かないんだろう

開けない Tight bud

温かい両腕もなければ

咲いても見てくれる人すらいなくて

何を求めて

何を欲して

どうして美しく咲けないんだろう

想像以上に渴いた

This secret garden

Honor the sweet smile

今近づく

More secrets of your imagination

on

冷えたその両腕で  
抱えあげてみて

重たい水のしたたる

秘密のそれは

あなたの抱えきれない

嘘と本当を纏つた

The last

flower

for you

棘も何もない

甘い香りをたたえた

Cruel love

まとわりついで

あなたの鼻の奥

このにおいのこびりつく様に

忘れられないように

見えない棘で

雁字がんじがら搦め

痛くないように

Cruel love

ただ優しく

表裏の愛

ただ Cruel

love

本当の愛

## **B e e p m e g e n t l y**

The brutal Shining

This excitement

Heck, who can quell

I want

Nobody knows

My real excitement

This embraced the heat

Never been healed without

Without telling anyone, and his excitement that someone

Trigger its shape

Do not treat the most

The most important witness

This maybe I

a  
d  
P  
r  
o  
g  
r  
e  
s  
s  
c  
o  
n  
t  
i  
n  
u  
e  
d  
o  
n  
t  
h  
i  
s  
r  
o  
But no such mistake  
Including but no regrets  
Certainly heat  
Beeper gently

**s p e a k   w i t h   a n y o n e** (前書き)

多分、近々、この詩集も閉めて・・・新しいのに入るかな・・・？

誰も立ち止まらない

道の端

私が今喋っていること

耳を傾けて

正統派のおしゃべりなんて

退屈

つまんなくて

Not 刺激

嘘めいた その言葉ならべに  
丁度嫌気もとしてたところよ

耳塞いで

この音楽を頭の中

ジャンジャン搔き鳴らして

ほらめいいっぱい

あんたの頭ん中

可笑しくなつちやうへうりー

皆黙つて

この音楽にただ酔つて

ただ狂つて

バンバン踊り明かしちゃおつよ

このまま夜が過ぎても後悔しないへうりー

高いヒール  
見栄張つて  
足が疲れても  
脱がないで  
そのまま踊り明かしちゃ おう  
このまま朝を迎えちゃおう

黙つてディスコ  
あなたこそが  
今宵のクイーン  
痛々しいくらい  
剥がれた化粧  
誰の為でもない  
仮面を脱ぎ去つた証拠

本当のあなたは  
あなたのためだけに存在してんだから  
縛られないで  
黙つて  
皆  
自由に過ぎじて

## 黙つて

エグいつて何よ  
何様のつもりよ  
使いこなせない  
不自由に日本語  
履き間違えて

その口先を  
塞いでやりたいわ  
つまんない事ばっか言つて  
結局 馬鹿は丸出しだもの

その口閉じて

この命令聞けないなら消えて  
どうでもいいじゃない  
黙ることすら忘れたの

絶えずその動く唇に

嫌気が差すわ  
虫睡も走る  
気持ち悪い

エグいつて何よ  
何のつもりよ

頭の弱さと居眠りしか  
脳に無いようなんに  
言われたくもない

エグいって何よ  
あなたの話す  
その残念な日本語のほうが  
よっぽどエグい

喋るなら  
もう一度出直ってきて

遺伝子のたつた

XとYに隔てられて  
たつたそれだけの為に  
別けられたふたり

分別は必要なの

私は仮にあなたが女でも  
あなたは仮に私が男でも  
お互いに選べるのかしら

恋愛時代の終わつた今

”良き友人”として  
お互い肩をあわせて  
並び歩く

他人がいくら冷やかそうと  
何を言おうと

そんな関係はもう終わった

あの日

あの感情の冷めた日から

あなたは私を”友達”的の括りに入れる  
私もあなたを”友達”的の括りに入れる

何気ない会話をしたい

どうでもいい話を

繰り返し

朝の訪れるたびに

そのいつときに賭けてみる

そして家を出る

恋愛時代の終わったその日から  
あなたは私の中を中心になるんだ

I t s t a r v e s o n e s e l f o f l o v e .

まるで喉の奥  
ヒリヒリ渴くみたいに

次から次から出会う

その異性に

すぐに目をつけてしまひから

Married person

Man who has her

Classmate

Singapore men . . .

私に見境など存在しなかつた

”彼氏”を得てしてもなお  
私の渴きは止まらない  
執着心など

いつも”彼氏”のポジションに持てず  
物色し続ける毎日  
お買い物中毒みたい

”愛してる”その形つていろいろあると思うし  
”彼氏”が”愛してない”わけじゃないってこと  
分かつていたのに

けれど耐えられなかつたの  
物色を続けて  
まるで薬物中毒者みたいに

なんでこんなに飢えているんだろう

可笑しい  
可笑しい

分からぬサイクル  
生きているうちに  
何人の人を必要とするんだろう  
けれど  
愛してもらわなくちゃ  
苦しくなるくらい思いつきりの愛で  
私は正常に生きていけない

It stares oneself off love. (後書き)

思つた以上に生々しい・・・

## タイガーアイズ

綺麗な

まるでタイガーミたいな

瞳の色した

あの人に

もしかしたら

もしかすると

惹かれてるんじゃないかなって

どこかで

恋のレーダー反応してるとことに

気付いて

私が恋をしなかつたら

それは心臓が止まる瞬間

ときめきの感覚が忘れられないのか

あの緊張感がやめられないのか

すっかり片思いから両思いへの

移行期の

中毒になつた私

とりこになつたのは

私一人だけれど

確實に

誰かを巻き込みたいのは

本能のよづね

うずく

頭の中

あのタイガーアイズ

もっと焼き付けて欲しいって

もっとこっちを見て欲しいって

無いもの強請り

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6653z/>

---

【詩集】もがりぶえ

2012年1月12日18時53分発行